

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワタイル		
事業所名	グループホーム よこせ		
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2 (電話) 0959-32-2611		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年10月9日

## 【情報提供票より】(H19年9月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	40 円
	または1日当たり		790 円	

### (4) 利用者の概要(9月9日 現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	真珠園療養所 たいら医院 小武医院 大串歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑と陽だまりに包まれた自然豊かな環境の中、代表者の「生まれ育ったこの地域に還元したい」との願いで、ホームは設立された。「共に助け合い、共に生きる、出会えたことの喜びと、これからの一生を大切に」の理念のもと、職員は利用者本意の姿勢で、向上心を以って日々のケアに励んでいる。入居者の方々の表情は穏やかで、入居時よりも状態が良くなっている事が、職員の自負と喜びであり、ご家族の安心と信頼につながっている。地域に根ざしたホームをめざす地道な努力により、隣接住民の理解と協力が得られている。今後益々、地域の人々と支えあうような、双方向の関係構築に期待が持てるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1)鍵をかけない工夫では、ドアベルが取り付けられていた。2)周辺施設の理解・協力への働きかけについては、民生委員・駐在所・老人会等への働きかけで、協力を得られるようになってきている。3)ホーム機能の地域への還元は未だ取り組まれていない。4)確実な申し送りでは、特記に対する朱書きの改善がみられた。しかし、口頭伝達だけで全員に伝わっていない事があったり、確認者のサインはあるが、未確認者への促しがないなど不十分な点がある。5)改善計画シートは確認できなかった。今後、改善項目については、改善への取り組みを明確にし、年間を通しての計画的改善が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価に記載し、計画作成者が確認しながら完成されており、職員全員で取り組むまでには至っていない。評価の意義とねらいについて、運営者、管理者、職員で話し合い、全職員で自己評価に取り組む事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	12のグループホームからなる西海地区認知症ケア研究会の中に合同での運営推進会議が設置され、うち6グループホームが参加している。厚生労働省基準省令第85条による「おおむね2ヶ月に1回以上開催」、「各事業所が自らが設置するものである。」との解釈通知に鑑み、より一層地域に根ざした運営推進会議を目指し、取り組むことを希望する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年1回、全ご家族が参加する家族会が開かれ、席上ご家族より、重度化・終末期を迎えるにあたっての不安や、職員交代に対する意見や要望が出され、質疑応答の形で管理者が説明をしている。重度化や終末期を迎える準備には、まだ時間が必要で、体制構築のための準備段階にある。又、家族会の回数を増やすことや、家族間だけでの話し合いの時間を設けることなど、検討の予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	年1回の火災訓練時には、民生委員・警察・消防等に要請し、協力関係にある。隣接する民家には、避難場所としての協力が得られている。周辺住民からは、畑作りなどの指導や声かけがあり、ホームに対する理解がある。地域の夏祭りや、敬老会には声をかけられるが、町内会へ受け入れてもらうまでには至っていない。町内会、老人会、子ども会、婦人会などには運営推進会議の参加メンバーになってもらえるよう働きかけたり、ホームを地域ケアの拠点に提供するなど、より地域に根ざした双方向間交流に期待する。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に還元したいとの代表者の設立の意義の上に、「共に助け合い、共に生きる、出会えたことの喜びと、これからの一生を大切に」という理念が事務所に掲げられ、ミーティング時に唱和されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティングや申し送りの時に唱和されている。しかし、職員の交代や入居者の入れ代わりが重なり、日々の提供場面で、それぞれの入居者の方々に統一して活かされているとは言い難い。		理念は日々唱和されているので、ミーティングや会議の時等に、入居者の方の日々の具体的なケアについて、(声かけ・態度・記録等)一例でも掘り下げるなど、職員全体で意識の統一を図り、ケアに活かす工夫が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺施設に協力を呼びかけた避難訓練や畑作り、一帯の草むしりなどで、隣接住民や駐在所・民生委員の理解や協力が得られるようになってきている。夏祭りや老人会などにも声がかかるようになってきているが、町内会へ加入するまでには至っていない。		今後、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力と、事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係作りの取り組みを、更に希望する。認知症やホームへの理解、地域との交流促進のためにも、町内会、老人会、子ども会、婦人会などには運営推進会議の参加メンバーになってもらうことが望まれ、更なる地域に根ざした交流に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者とケアマネージャーのみで作成され、自己評価・外部評価のねらいや活用方法が職員に伝えられておらず、全職員で取り組まれていない。前年度の改善計画シートが作成されておらず、改善したこと、していないことの見直しなど、確認できない。		通知においても評価は全職員で取り組むべき事が明示されている。評価の一連の過程を全職員で取り組む事で、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となる。年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、質の確保に最大限活かしていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	西海市6事業所による合同の運営推進会議に、管理者・主任等、代表が出席している。会議での意見等は、職員・入居者・家族等へ周知・報告・検討等はされておらず、サービス向上に活かされているとは言い難い。平成18年7月及び9月に開催後、今年になって8月29日開催のみである。		「地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支える役割を持つ地域密着型サービスの中の運営推進会議である。」という原点に立ち返り、その本来の目的を達せられるように、事業所自らが設置することが望まれる。地域に働きかけ、課題解決に向けた協働関係作りを積極的に行っていくことや、おおむね2ヶ月に1回開催することが望ましい。

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、運営の理解に積極的な姿勢があり、連絡相談等気兼ねなく密接に連携し、協働関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回請求時に写真を添え、ご本人の個人記録そのままを抜粋し、コピーして送付している。職員が記録した入居者のそのままの様子を、ご家族にも汲み取ってもらえ、ご家族の理解と協力への促しにもなっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回全員参加の家族会が設けられ、席上重度化・終末期を迎えるに当たっての不安や、職員交代への意見・要望等が出されている。そのことに応じるように重度化・終末期を迎える検討の準備に入り、職員定着への努力に取り組もうとされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代に当たっては、1ヶ月間の引き継ぎ期間をおき、顔馴染みの関係作りに配慮されている。新人に対しては、入居者の方一人ひとりに自ら積極的に声をかけ、関わっていき、早く慣れてもらえるような関わりの指導がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	西海市認知症ケア研究会における月1回の研修には交代で参加している。管理者は、職員の質の確保、向上に向けた育成が不可欠である事を認識されている。管理者自身及び職員の交代が多かった事から職員研修が行き届かず、職員自身も勉強不足を意識されており、定着を図るべく努力中である。		管理者の今ある人脈により、PT・OT等の招聘が予定されており、現状に即した専門的な意識と技術の習得に期待する。年間を通した研修計画を作成され、認知症の理解とケアや、感染症、身体拘束等、職員の定着とともに、意識・技術両面から、計画的で着実な研修実践の蓄積を希望する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第2水曜日に、12事業所からなる西海地区認知症ケア研究会に参加し、交流している。又、近くの他ホームと職員の相互研修を行い、事業所外の意見や経験を運営やサービスの質の向上に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用申し込み時、ご本人・ご家族に面会し、入居前の聞き取りを行い、職員でカンファレンスを行っている。入居後、帰宅願望があれば、職員は寄り添い、気持ちが落ち着くのを待ち、適時の声かけやケアの支援で、本人の安心につなげている。昼夜逆転があっても安易な薬の使用を避け、昼間の外出などで日中の活動やリズム作りに努め、徐々に馴染めるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>郷土料理や地域のしきたり、畑作りや饅頭作りなど、入居者の方の昔ながらの知恵や、すし作りなど主婦としての長年の経験や力に学び教えられることが多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>直接ご本人の顔色を見たり、しぐさや態度・様子を見るようにしている。横になったら起きることが困難な方の場合、なぜ起きることが困難か・起きたくないか・眠たいか・寝ていたいかなど、声かけしたり、様子を観察したり、その時々で判断されているが、無理強いはしていない。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のケアカンファレンス時には、ご家族から聞いたり、話し合った事などをもとに、入居者の方との関わりの中から見出されたその方の事など、地域でその人らしく生きるという視点のもと、職員がそれぞれの意見を出し合いケアプランが作成される。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの目標が、毎日のケアに反映できるような個人記録の工夫があり、毎月の評価につなげている。骨折で入院された方の退院後の回復具合に応じ、(歩行困難時 畳をはって歩かれていた時期 歩けるようになった)その時々状態に応じた見直しが行なわれている。</p>		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じ、通院や送迎等必要な支援には柔軟に対応し、日々の満足を高めるよう努力している。必要に応じ、サービス事業者や地域ケアマネ・病院のソーシャルワーカーと話し合い、よりよいサービスの支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほかに入居者の馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援がなされており、健康・医療面について、ご家族の安心につながっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在医療連携加算申請の準備中である。ご家族の不安や要望もあり、当ホームとしても、重度化・終末期に向けた支援の意向はあるが、職員交代、入居者の方の入れ替わりの時期が重なり、その体制や諸準備に至っていない。		重度化した場合の対応のあり方や終末期の医療措置の対応については、医療機関や家族の意向、職員体制等を考慮しながら、比較的早い段階から重度化や終末期に関する基本的な方針を明確にし、職員や家族と考え方を共有していくことが望まれる。又、ゆっくりとした終末期を迎えられるように、入居者がどこで最期を看取られたいか・宗旨の事・どなたに来て欲しいか等もご家族・ご本人から聞き取り、説明し、意思確認書等で記録を残しておくことが望ましい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ 洗面所 浴室と流れるような動線となっており、沮喪があったとしても他の人に気づかれないように配慮して行われている。又、その人が安心を得るような、プライドを傷つけないような声かけがなされている。広いトイレにはプライバシーに配慮してカーテンにより仕切られているが、丈が短いので継ぎ足す予定がある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物たたみをする中で、他人のものでもご自分が畳んだ物をご自分のものとして居室へ持っていかれても、職員は後でそっと持ち主に返しておくなど、ご本人のしたいことには手出しせず、制限せず、見守り、待つ姿勢を保っている。		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方は、芋づるをむくなど、職員と共に調理の下ごしらえをされている。職員が食事の用意をしている間に、テーブルを拭いたり、お絞りを配ったりされていた。食後は下膳の手伝いをされ、職員は「ありがとう」「すみません」と感謝とねぎらいの言葉をかけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火・木・土と週3回決められているが、希望があればいつでも入浴できる。毎日から隔日にすることによりスムーズに入浴できるようになった経緯がある。パラ風呂にしたり、しょうぶ湯、ゆず湯の支援と季節や気分転換に配慮し、気持ちのよい入浴促進の工夫がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭いじりや畑仕事を行うことによって、収穫のものを食卓に共するなど喜びと楽しみの支援につなげている。朝食後の洗濯物干し、おやつ後の取り込みなどは、入居者の方から気になり促して下さる。居室の掃除は入居者自ら率先して行っておられる。又、おすし作り、魚をおろす、料理の味付け、ぬり絵や絵葉書・ビデオ、ドライブ等、役割や楽しみごと、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければドライブや買い物に出かける事が多い。希望があれば、墓参りや、知人宅、ご自分の家の周りなどへも出かけたりしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけられていない。玄関にはドアベルが取り付けられ、入居者の方の外に出る様子を備えられている。外に出られても現在は、玄関外のベンチで休んでおられる。職員はご本人の気が済むまで見守り、適時に声かけをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防団・駐在所の協力を得、民生委員参加のもと、夜間想定年1回の消防訓練が行われている。近隣の民家の方には、避難所としての協力が得られている。火災報知器は消防団長へ直結している。		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかに一日の飲水・食料は把握されている。飲みたいときはいつでも飲めるようにテーブルにはポットが用意されている。糖尿病の方には、少量のご飯でも、たくさんに見えるように小さなお茶碗にご飯をよそっておられた。嫌いなものについては、刺身は焼いたり・煮たり、肉は魚にと代替食が用意される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関へのアプローチは入居者丹精のプランターの花で飾られている。屋内はいったいに広々として明るい。リビングには見やすく大きな字のカレンダーがかけられてあり、窓からの陽射しはレースのカーテンで適度に遮られている。廊下の壁には 入居者製作の作品が飾られ季節感がある。入居者の方は思いおもいに過ごしておられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、時計、写真、タンス等その人らしい馴染みの物が持ち込まれた居室は1室のみである。職員はご家族へ馴染みの物の持ち込みを促しているが、馴染みの物が少ない居室が多く見受けられた。		ご本人の持ち物が少ない、ご家族の協力が得られないという場合でも、その条件にとらわれず、ご本人の意向を確認しながら、職員がその人らしく居心地のよい居室作りに積極的に取り組んでいくことを期待したい。